　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　川崎支部支部長　山岸一雄　（執筆：河合・山岸））

**川崎支部便り　第55号　（2022年8月）**  
**オープンで各自が主役：川崎支部**

人生を豊かに（雑学のすすめ）

自分で走って部屋を掃除するお掃除ロボット。障害物を検知するセンサーの中には、三角関数の性質を利用して対象物との距離をはかるものが有ります。正面に光を当て、跳ね返ってきた光の角度から距離を求めています。ロボット掃除機の側面には、距離を測れるセンサーがいくつも取り付けられ、障害物をうまく避け、壁と一定の距離を保ちながら走行しています。　この距離センサーをロボット掃除機の床面に取付けると、誤って階段から落下することを防ぎます。ロボット掃除機が階段に差し掛かると、床面が急に底面から遠くなり、センサーがいち早く感知します。ロボット掃除機が段差から落ちる前に止まります。

川 崎 点 描 ： 川崎支部活動拠点

　【「忠臣蔵・赤穂事件」と「縁（ゆかり）」がある川崎市⑫】

〇さて更に築地本願寺、芝大門、札ノ辻、御田八幡神社、高輪大木戸、そして目的地の泉岳寺に着きました。多くの研究者は午前8時頃（五つ辰刻の正刻）に目的地の泉岳寺に着いたと言われています。泉岳寺でも午前8時頃に着いたと伝えられています。吉良邸から泉岳寺迄「約」12㎞はあります。江戸時代の人々の移動は徒歩移動が当たり前で、実に健脚です。様々の記録からの情報では、仇討ちは午前6時頃に終了し、2時間で泉岳寺に着いたと言われることが多いのですが、時速６㎞の速さです。確かに１年9か月かけての目的達成の気持ちの高揚で歩けたのでしょうか。私は前日が雪で残雪が有り、問題なく歩けたのでしょうか。負傷者は2人でしたが、時速６㎞で移動出来たのでしょうか。47士は火消（ひけし）装束の下に重い鎖帷子（くさりかたびら）を装着していて、また高齢者も多く、総合的に考えると、約3時間弱の時速４㎞程での踏破と思います。第54号でも同様の説明をしています。

〇泉岳寺にて

　泉岳寺に着いた一行は、浅野内匠頭の墓前に吉良の首をそなえ、一同焼香。吉良の首と浅野内匠頭の遺品の小刀もそなえられて、鞘から抜かれた小刀は、軽く3度吉良の首に当てたそうです。この儀式は浪士全員が行ったのです。この式次第が書かれた古文書では、赤穂浪士たちが仇を討ったとはしていないそうです。浪士たちは吉良を墓前にお連れしたと記載されているそうです。そして、浅野内匠頭自身が吉良を討って、悔いを晴らした形にしてあるそうです。

〇吉良家への首返還

　浅野内匠頭の墓前に供えられた吉良の首は、箱に詰めて泉岳寺に預け、寺から吉良家へ泉岳寺の僧により送り届けたそうです。この時の受領書（首一つ）が泉岳寺に残されているそうです。栗崎道有（くりさきどうう）（＊１）が戻ってきた吉良の首と胴体をつなぎ合わせて、菩提寺の万昌寺に葬りました。首返還は1702年（元禄15年）12月16日のことでした。

〇赤穂浪士たちへの沙汰

　赤穂の吉田忠左衛門と富森助右衛門から討入りの報告を受けた大目付の仙石伯耆守（せんごくほうきのかみ）は月番老中稲葉正往（まさみち　相模小田原藩第３代藩主）に報告し、二人で登城して幕府に討入りを報告しました。

　幕府は浪士達を細川越中守綱利、松平隠岐守定直、毛利甲斐守綱元、水野監物忠之の4大名家にお預けとしました。預け先での対応の差が有った様です。細川家は罪人ではなく武士として、英雄として扱われたとの話が残っている様です。また、逆に毛利家の対応は、罪人としての扱いをした記録が残っている様です。他の大名家はどの様な扱いかを知りたいものです。

〇赤穂浪士への切腹の処分

　幕府の決定は、1703年（元禄16年）2月4日（旧暦）、3月20日に切腹をさせる結果が出るまで約2か月かかりました。理由は浪士が「主人の仇を報じ候と申し立て」、「徒党」を組んで吉良邸に「押し込み」を働いたからです。幕府の判断の重要点は「主人の仇を報じ候と申し立て」との言い方だそうです。あくまで赤穂浪士たち自身が「主人の仇を報じる」（受けた恩に報いる）と「申し立てて」いるだけで、幕府は討入りを「徒党」であり「仇討ち」と認めないとの立場です。

　しかし本来ならば、この様な罪には斬首が言い渡されますが、赤穂浪士の立場を考慮したのか、武士の体面を重んじた切腹という決定をしたと思います。更に、江戸庶民たちの幕府に対する吉良には以前の「お咎めなし」で、一方浅野内匠頭に対し、即切腹の決定と実行等による浅野内匠頭への同情心が有った様です。そして今回の主君への仇討ちの実行で、「浪士」から「義士」への褒め称え（ほめたたえ）の世論の声が相当あったと思います。この時代は瓦版の発行も盛んで、仇討ち情報も二日間で、江戸中に知れ渡った様です。幕府の切腹決定までに苦労もあり、そのことをお伝えしましょう。

〇切腹の実施

　綱吉の決断で切腹が決まるそうです。幕閣や世論は浪士賛美と同情無罪論の中、学者の意見は二つに分かれました。浪士賛美（同情無罪論）（林鳳岡（ほうこう）、室鳩巣、三宅観蘭等）と法政論（有罪処罰論）（荻生徂来、太宰春台、佐藤直方（忠義と法律違反は厳格に区別するべき）。将軍徳川綱吉は自ら忠孝を説いていましたが、天下の大法を破ったことに躊躇し、民意か法律かで悩んだ末に１月20日過ぎに「切腹」の断を下しました。

1703年（元禄16年）2月4日（旧暦）、3月20日に幕府の命で赤穂浪士たちは預けられていた大名屋敷で切腹をしました。場所は庭でしたが、最高の格式である畳３枚（細川家）、もしくは2枚（他の3家）が敷かれたそうです。当時の切腹は形骸化していた時代で、映画の様な派手な切腹ではなかった様です。赤穂浪士の遺骸は、主君浅野内匠頭と同じ泉岳寺に埋葬されました。赤穂の浅野家の菩提寺である花岳寺（兵庫県赤穂市加里屋1992）にも、37回忌の1739年（元文4年）に赤穂浪士たちの墓が建てられ、墓には浪士たちの遺髪が埋められたと伝えられているそうです。

〇収監先の相違

①細川家（大石内蔵助ら17人）

・藩主は細川越中守綱利（肥後熊本藩54万石）で、義を重んずる家風であり大藩でもあったので浪士の扱いも一番優れていた。

・世話役は堀内伝右衛門（58歳）で、二百五十石。忠誠篤実な人物で「堀内覚書」を残し、17人の詳細（人物、性向（気質のこと）や伝言の取り次ぎや切腹時の遺言などを）書き留め、義士研究の第一級の史料である。

・家老の三宅藤兵衛他八百七十余人が仙石邸に向かい浪士たちを引き取る。十二月十六日午前二時頃に到着し、直後に藩主自ら面会して「いずれも忠義の至り感心である。まことに天命に応ったことだと思う」とねぎらう。

・切腹命令書により、八ツ刻（午後2時頃）上使荒木・久永が到着し切腹を申し渡す。

・切腹の時間は1人6分で17人の居間には生け花が飾られ、最後の料理と風呂もたてられ、浅黄無垢の麻裃、黒羽二重の小袖などが渡された。17人の切腹は午後4時にはじまり午後6時頃に終わる。

首実検は最初の2人だけであとは省略され、1時間50分で終えており、所要時間は1人5、6分で4家とも申し合わせたように共通している。

・葬送の様子は切腹後死骸を桶に入れ、1人ずつ乗り物に乗せて、籠提灯1対、小姓1人、足軽2人ずつを配し、前後を騎馬で固めて泉岳寺へ送られた。また別に10数人を泉岳寺に遣わし待ち受けさせた。

②松平家（大石主税ら10人）

・藩主は松平隠岐守定直（伊予松山藩15万石）。

・世話役は波賀清太夫朝栄（ともひさ）歩行目付で、剣客、気骨のある接待役。大石主税の介錯人をつとめ、お勤め中に聞き書きした「波賀朝栄聞書」は第一級の研究史料。

・切腹の時間は1人6分10名の切腹は午後5時に始まり、午後6時頃に終わる。介錯人は浪士2人に1人。

・葬送の様子は死骸を布団に包み、縄で結び、名付きの札を付けて駕（庶民は竹組の粗製篭しか利用出来なかった）に乗せ、駕1挺（いっちょう）毎に白張提灯2張、箱提灯1つづつ、棒突足軽5人、持筒1人、10挺同様に裏門から出し泉岳寺へ送り、泉岳寺で引導（死んだことを死者に理解させる法語を唱える行為）の後、桶に入れ、土中深く埋めた。

③毛利家（勝田新左衛門ら10人）

・藩主は毛利甲斐守綱元（長門長府藩五万石）。

・藩主の接見は12月29日に行い、食事は2汁5菜、昼お菓子、お酒、火鉢も入れ「太平記」などの読み物を読むことが出来た。

・切腹の時間は1人6分で、切腹刀の代わりに扇を紙に包んだものを10本用意したいわゆる「扇子腹を切らす」つもりが幕府目付にダメ出しされ急遽、小脇差しに取り替えた。介錯人は浪士２人に1人で行われた。

・葬送の様子は、間新六の死骸を「秋元但馬守の家来で中堂又助なる者、近き親類たるにより申し受け度く」（秋本但馬守喬知（たかとも）の家来で、但馬守の家来だった間新六の姉婿で中堂又助という者が、近い親類であるとの理由で遺骸を受取りたい）との申し越しに付き、これを許可。残りの9人は乗り物9挺に入れ、足軽1挺2人宛付け、別に押さえの為、足軽と中間を各5人付けて泉岳寺へ送った。

④水野家（間十次郎ら9人）

・藩主は水野監物忠之（三河岡崎藩六万石）。

・待遇は大書院を屏風で仕切って預かるように準備したが、身分の軽い者なので外の戸障子などを釘付けにした長屋に収監される。後に待遇が改善され、三田の中屋敷に移し2汁5菜に改め、正月には雑煮も出て祝うことが出来た。

・切腹の時間は1人6分で、切腹刀は刀身を板で挟んで布で包み、切っ先を五分出した小脇差が用意されていて、午後4時に始まり午後5時丁度に終わる。

・葬送の様子は、留守居役から手紙で「御預之輩切腹被仰付にて、死骸差し遣わさる可き」旨を申し送り、戌中刻（午後8時頃）泉岳寺からの使僧が死骸遣わされ候様と返事に来たので、葬列も厳重に泉岳寺に向かった。

（＊１）江戸時代の蘭学医、松の廊下の刃傷事件の時に江戸城内で即、吉良の治療をした。

　　（出典Yahoo Japan）

　支部の活動

①　2022年07月16日（土）に夢キャンパスで、第20回定例講演会を開催しました。

「地域の歴史再発見～玉川地域の町名の由来と沿線

今回は「東急沿線」を主体として、奥沢（自由が丘クラブを含む）、玉堤（世田谷キャンパスを含む）、玉川田園都市、尾山台、等々力、上野毛、用賀、瀬田等、地名の起こりをわかりやすく説明しました。以下は動画のリンクです。

<https://1drv.ms/u/s!AqtToheEzXINg1Zb1ivN9NCcXF7p?e=0J4FLY>

 ②一般の参加者には東急勤務、近隣の夫婦、毎回の参加者等、大変好評でした。東急の方は熱心に配布資料（コンビニで印刷しました21ページ）にメモをとり、食い入る様に聴講していました。

③参加希望者から次回も参加したい要望があり、自宅の連絡先メモを頂きました。

④東急財団発行の「財団だより多摩川」には、知識工学部自然科学科の中島保寿准教授が研究課題（レーザースキャナーを用いた玉川流域上総層群化石群の3次元構造データ保存法の確立）の概略を記載しています（2021.3最終号）。

二子玉川夢キャンパスの書架（入口を入った右壁面）にあるので、閲覧をお勧めします。

「

 ご存じですか

ゴボウのポリフェノールの含有量は、根の皮部分が最も多いのです。皮は実の2倍以上含まれています。ゴボウの先端には、約8倍の鉄分が含まれ、鉄分が多い順に、先端の皮部>根の皮部>中央の皮部。一番少ない中央部でも、皮は実の6倍以上、先端部は実に約8倍です。根の先端は捨てないで下さい。

もったいない切り方のNO.1は「ささがき」です。抗酸化力根本と皮がポイントです。ゴボウに含まれるポリフェノールには、風邪予防、老化防止等高い抗酸化作用が隠されています。「ささがき」よりも「輪切り」が油工です。ささがきのゴボウを茹で料理した場合、ゴボウのポリフェノールの主成分であるクロロゲン酸が8％にまで減ります。皮ごとの輪切りなら、残存率は最大72％にもなります。

カルシウムやマグネシウムも、ささがきや細いせんき切りでは、その多くが消失します。また、皮が命の野菜なので、真っ白になるまでこすり洗いをすると、皮に含まれるタンニンがほとんど消えるので注意しましょう。

皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。（連絡先：[k\_yamagishi@hexel.co.jp](mailto:k_yamagishi@hexel.co.jp) 山岸宛）